

2023 年 3 月期 第 2 四半期決算説明会 質疑応答要旨

2022 年 11 月 10 日(木)に開催した第 2 四半期決算説明会の質疑応答要旨です。

Q. 通期予想は変更していないが、各事業の進捗としてはどうか？

- A. 進捗としては、両事業とも予想を下回っているものの、SI 事業の方は堅調。セキュリティ事業の方は前期よりは伸びているが、思ったより上期は伸びていない。

Q. セキュリティ事業が想定ほど伸びなかった背景は？

- A. 今期は、診断の主力である Web アプリケーション診断、プラットフォーム診断は、前期から大幅に伸長しているが、我々が期待しているほどは伸びなかった。前期もそうだが、競合が非常に増えていることが要因のひとつ。

Q. 全社共通費用は、進捗としては少なめに見える。ここで利益としてはプラス影響になっており、セキュリティ事業の遅れをカバーできそうということか。

- A. 全社共通費用は想定より使用していない状況である。下期に対して色々な策を打ち、上期の部分を下期に取り返して利益を確保してく。

Q. 第 2 四半期（3 カ月）では前年同期比で大きくプラスになっている。診断サービスで競争が厳しいという話があったものの、回復の兆しがみられているのではと思うがどうか？

- A. 診断サービスは、需要の予測がしにくい分野であることは否めない。特に第 1 四半期が期ごとに全く動きが変わっている。この上期は前期よりプラスだが、もう少し入ってもよかったと考えている。市場や経済状況に不透明なところがあり、顧客サイドとして、特に診断の投資を先延ばししている様子である。

Q. 診断サービスにおいて、企業側の投資抑制については、今期は続いていくという見通しなのか？

- A. この上期は、前期より傾向としては良く、投資の先延ばしで期待するほどはまだ出てきていないというところ。下期に向けて、どこまで需要を取り込めるかが勝負と考えている。

Q. 内部不正対策について、エルテス社との提携効果というところで、お客の反応度合について教えてほしい。

- A. 大手製造業グループ向けからスタートしており、明らかにグローバルで国を代表するような企業グループでは、必ず必要になる需要であると捉えている。まずは、その企業グループ向けに半年やってきており、実績も出てきている。今後、同じような企業グループに対して横展開していきたいと考えている。

内部不正問題は、以前より各社さん懸念されている。経済安全保障の観点もあり、社内から情報を抜き出して社外に持ち出していくことに大手企業の皆さんも非常にセンシティブになっており、弊社としてはこういう機会にしっかり需要を捉えていきたいと考えている。まだまだこれからの分野であり、今期もあとどれくらい拡大できるか楽しみにしている分野である。

Q. エルテス社との提携について PL としてインパクトが出てくるのはいつからと考えているか？

- A. 上期ですでに PL インパクトは出ている。下期にそれをどこまで増やしていけるか、また、今後さらに伸長できるかがポイントだと捉えている。

Q. 内部不正対策については、今、何社くらいで話が進んでいるのか？

- A. 具体的に動いているのは今サービスを提供している 1 社。それ以外に、すでに個別監視サービスを提供している 3 社程度の企業にアドオンできるよう営業しているところである。

Q. 社内基幹システムが1年持ち越しになった要因と、今後の影響について教えてほしい。

- A.** 基幹システムは、内部の業務プロセスを導入する ERP パッケージに合わせていく形で推進してきたが、弊社特有の事業スタイルがあるため、中心となる業務のなかでどうしても乗らない部分があり、自社開発せざるを得ないことがいくつか出てきている。その部分をしっかりやろうとすると、弊社内で再度整えていく必要があることが判明し、約一年延ばしていくことを決めている。

費用面の影響については、今期は基本的に費用として出る部分はもともとの計画とほぼ変わらない。来期については、減価償却が始まるのが遅くなる分、開発遅延の部分がプラスされることから、実際に影響が出てくるのは減価償却が始まる再来期以降になると想定している。なお、原価償却費は5年で償却する予定である。

以上